

2015 年 3 月 18 日

報道機関各位

新東名高速道路(愛知県区間)の開通による経済効果 ～観光客約 1100 万人、消費額約 1000 億円(年間)の増加～

三菱UFJフィナンシャル・グループの総合シンクタンクである三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社(本社:東京都港区 社長:藤井 秀延)は、新東名高速道路(愛知県区間:浜松いなさJCT～豊田東JCT間)の開通(2015 年度中開通予定)による経済効果を試算しましたので、発表いたします。

アンケート結果に基づき試算した結果、新東名高速道路(愛知県区間)の開通と、それに伴う東名高速道路の混雑緩和によって「お出かけ」行動が活性化し、愛知県と静岡県合わせて年間約 1,100 万人(H25 年比[※]で約 9%増加)の観光客数の増加が見込まれます。また、増加した観光客による観光消費額は年間約 1,000 億円増加(H25 年比[※]で約 11%増加)すると推計されました。

※観光庁「全国観光入込客統計のとりまとめ状況(年間値:平成 25 年)」より

詳細は添付資料をご参照ください。

以上

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

政策研究事業本部 名古屋本部 研究開発部

副主任研究員 水谷洋輔

主任研究員 右近 崇

〒461-8516 名古屋市東区葵一丁目19番30号

TEL:052-307-1103

2015 年 3 月 18 日

政策研究レポート

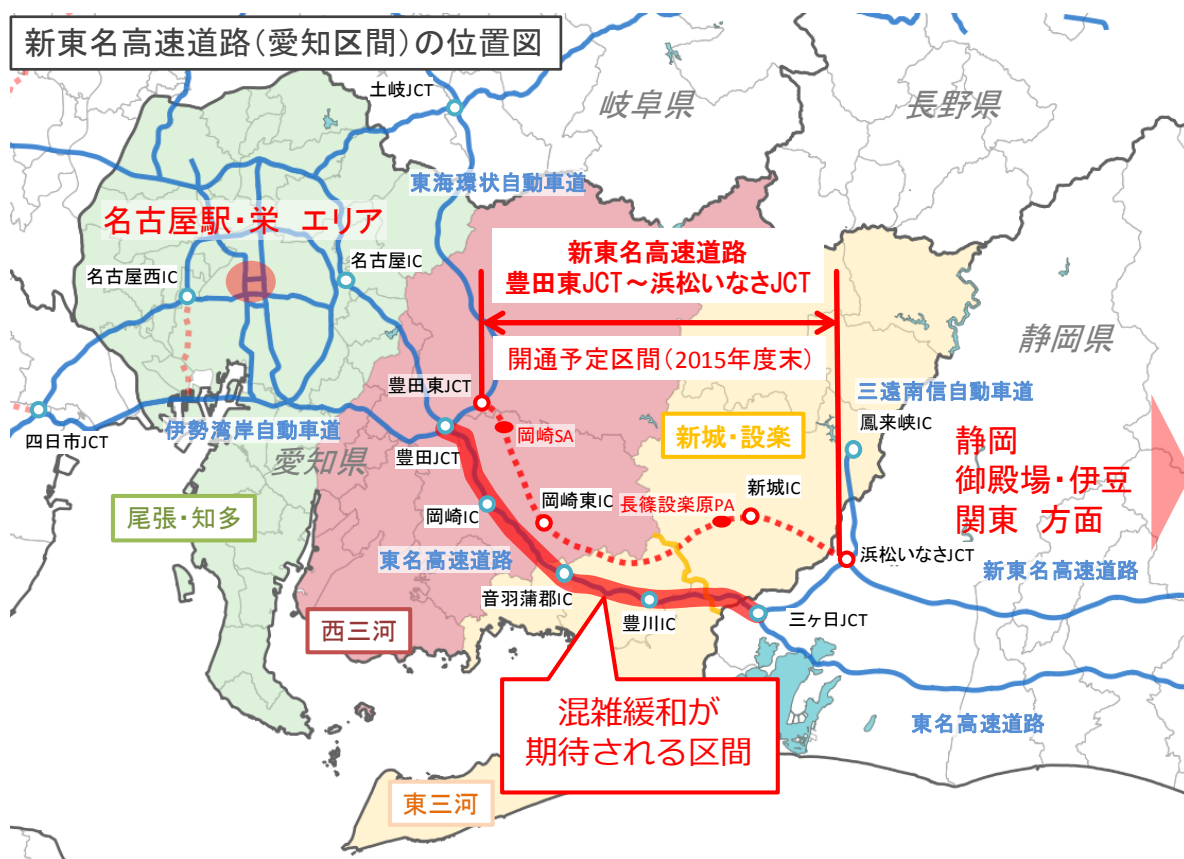
新東名高速道路(愛知県区間)の開通による経済効果 ～交通混雑により抑制された「お出かけ」行動の活性化～

政策研究事業本部 名古屋本部 研究開発部 副主任研究員 水谷洋輔
主任研究員 右近 崇

概要

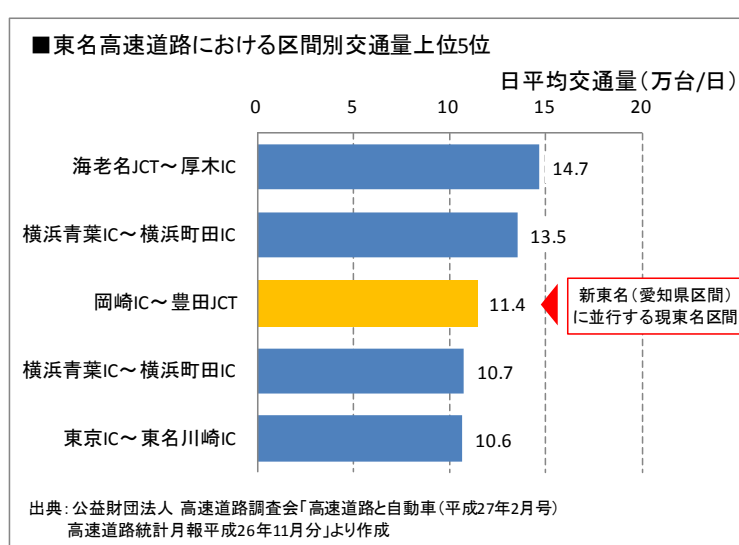
- ・ 東名高速道路(三ヶ日 JCT～豊田 JCT 間)で発生している交通混雑のために静岡県や愛知県への観光行動が抑制されているとの仮説をもとに、新東名高速道路(愛知県区間:浜松いなさ JCT～豊田東 JCT 間)の開通(2015 年度中開通予定)およびそれに伴う東名高速道路の混雑緩和で、両県にどの程度の観光交流が発生するかを推計した。
- ・ 愛知県、静岡県および周辺地域へのアンケート結果によると、東名高速道路(三ヶ日 JCT～豊田 JCT 間)で発生している交通混雑によって観光・レジャー行動を控えた経験のある人は 43%であった。
- ・ アンケート結果に基づき試算すると、新東名高速道路(愛知県区間)の開通後、愛知県と静岡県合わせて年間約 1,100 万人(H25 年比ⁱで約 9%増加)の観光客数の増加が見込まれる。また、増加した観光客による観光消費額は年間約 1,000 億円増加(H25 年比ⁱで約 11%増加)すると推計された。
- ・ 新東名高速道路(愛知県区間)の開通による観光客数および観光消費額の増加を確実に地域に取り込み、より拡大を目指していくためには、各地域で観光魅力の情報発信や魅力向上に向けた地域づくりを着実に進める必要がある。

新東名高速道路(愛知県区間)(以下、「新東名(愛知県区間)」という)は浜松いなさJCT～豊田東JCT間の全長55kmとなる区間で、2015年度(平成27年度)中の開通に向けて工事が進められている。これに並行する東名高速道路(以下「現東名」という。)の三ヶ日JCT～豊田JCT間は、両端で複数の高速道路の交通が合流するボトルネック箇所ⁱⁱとなっており、現東名の中でも3番目に交通量ⁱⁱⁱが多く、日平均交通量は10万台を越える。



また、同区間は、中部圏の高速道路における主要渋滞箇所^{iv}に選定されている区間を含み、日常的あるいはゴールデンウィーク・お盆・年末年始など交通集中期に発生する混雑渋滞緩和が課題となっている。

そのため、新東名(愛知県区間)の開通効果の一つとして、現東名(三ヶ日JCT～豊田JCT間)の混雑や渋滞緩和が期待されており、沿線自治体のほか、日本の大動脈となる高速道路として、広域的な交通活動の効率化や観光等における交流活動の活性化に対する期待も高い。



本調査では、現東名（三ヶ日JCT～豊田JCT間）における混雑・渋滞が、同区間を跨ぐような観光/レジャー行動、いわゆる「お出かけ行動」を抑制しているとの仮説のもと、新東名（愛知県区間）の開通によって、並行する現東名の混雑・渋滞が緩和された場合の交通量の変化を求めた。

具体的には、新東名（愛知県区間）の周辺地域にお住まいの方に対してアンケート調査を実施し、自動車で自由に出かけられる移動環境、新東名（愛知県区間）の開通による愛知県・静岡県への年間旅行回数の変化、観光/レジャーに伴う消費単価等を把握した。それらの結果を用いて、新東名（愛知県区間）開通時に愛知県および静岡県を訪れる観光客数や観光消費額を試算した。

アンケート実施概要

調査時期	2014 年 11 月 14 日～11 月 17 日
調査地域	愛知県（3 地域：尾張・知多、西三河、東三河） 岐阜県（2 地域：西濃・岐阜、中濃・東濃） 三重県（1 地域：北勢） 静岡県（2 地域：西部、中部） の計 8 地域
調査手法	WEB アンケート
サンプル数	1 地域 220 サンプル×8 地域＝1,760 サンプル
主な調査項目	現東名（愛知県区間）における混雑・渋滞で観光/レジャー行動を抑制した経験の有無 新東名（愛知県区間）の開通に伴う愛知県・静岡県への「お出かけ」需要の変化

アンケート調査の結果、現東名（三ヶ日JCT～豊田JCT間）で発生している混雑・渋滞のため、その区間を通り過ぎてまで、観光/レジャーに行こうと思わなかった経験を有する方は4割以上（43%）に達することがわかった。また、新東名（愛知県区間）の開通後を想定し、年間の旅行回数の見通しを伺ったところ、愛知県に対しては 0.85 回/年・人の増加、静岡県に対しては 0.64 回/年・人の増加が見込まれる。

これらの結果を活用して試算した結果、愛知県・静岡県の両県を訪れる観光客数は 1,163 万人増加すると期待される。（愛知県へは延べ 664 万人/年の増加、静岡県へは延べ 499 万人/年の増加）

また、この観光客数の増加に伴う観光消費額の変化は、愛知県・静岡県の両県で 1,007 億円/年増加するとの算出結果を得た。（愛知県では 552 億円/年の増加、静岡県では 455 億円/年の増加）

今回の試算は、観光/レジャー行動に着目し、新東名（愛知県区間）の開通による現東名の混雑や渋滞緩和によって、これまで抑制されていた観光/レジャーの「お出かけ行動」の顕在化、それに伴う来訪者数の増加や観光消費額の増加を通じて、地域活性化に貢献する可能性を示したものである。

なお、本推計結果は、周辺地域からのマイカーでの移動を前提としており、バスツアーなど他の交通手段や遠方地域からの来訪者数が試算結果の上ぶれ要因として想定される。

一方で、現東名の混雑緩和に対する回答者の期待を含めた回答も含まれていると考えられるため、新東名開通後の「お出かけ行動」を確実に取り込むことが肝要である。新東名（愛知県区間）の開通を目前に控え、新東名沿線地域等を核とした、観光魅力の情報発信や魅力向上に向けた地域づくりを着実に進める必要がある。

ⁱ 観光庁「全国観光入込客統計のとりまとめ状況（年間値：平成 25 年）」

ⁱⁱ 車線減少箇所や坂の勾配による減速箇所など、交通渋滞を発生させる箇所をいう。

ⁱⁱⁱ 公益財団法人 高速道路調査会「高速道路と自動車（平成 27 年 2 月号） 高速道路統計月報平成 26 年 11 月分」より海老名 JCT～厚木間、横浜町田～海老名 JCT 間に次いで 3 番目。

^{iv} 中京圏渋滞ボトルネック対策協議会「地域の主要渋滞箇所（高速道路）」（平成 25 年 1 月 22 日発表）

— ご利用に際して —

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。

新東名(愛知県区間)の開通による経済効果

- 現東名(三ヶ日JCT～豊田JCT)の混雑・渋滞によって、当該区間を利用した観光行動が抑制されている。
 - 新東名(愛知県区間)の開通による現東名の混雑・渋滞の緩和が、現東名利用に対する心理的な障壁を低減させ、抑制されていた観光行動を活性化させ、沿線地域等における新たな観光需要を創出する。
- 愛知県と静岡県で、合わせて**観光客数が約1,100万人/年(約9%)増加**し、それに伴い**観光消費が約1,000億円/年(約11%)増加**すると、試算された。

【開通効果の考え方】

＜交通課題＞ 現東名(三ヶ日JCT～豊田JCT)で混雑、渋滞が発生

※現東名(三ヶ日JCT～豊田JCT)は、両端部で複数の高速道路の交通が合流するボトルネック箇所となっている。
※当該区間は、中京圏の高速道路における主要渋滞箇所としても選定されており、混雑や渋滞が激しい箇所である。

＜仮説＞ 当該区間を利用した観光行動が抑制されている

※渋滞を懸念して、無意識に当該区間を利用した観光行動を選択肢から排除されている。
※当該区間が混雑／渋滞しているため、その方面へのお出掛けが抑制されている。(他の場所に行くなど。)

新東名(愛知県区間)の開通

(開通後の行動変化の見通し)

○混雑緩和や渋滞解消等への期待による、当該区間に対する心理的障壁の低

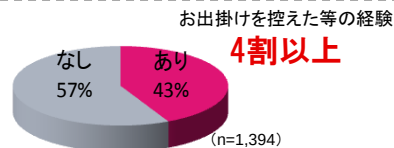
→**新東名と現東名を活用した新たな「お出かけ需要」の創出**

【試算結果①】愛知県・静岡県で **約1,100万人/年** 観光客数が増加

【試算結果②】愛知県・静岡県で **約1,000億円/年** 観光消費が増加

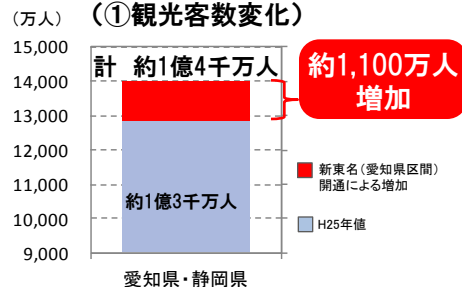
◆観光・レジャーの出控え経験

現東名(三ヶ日JCT～豊田JCT間)で発生している交通混雑や渋滞のため、その区間を通過してまで観光/レジャーに行こうと思わなかった経験の有無。



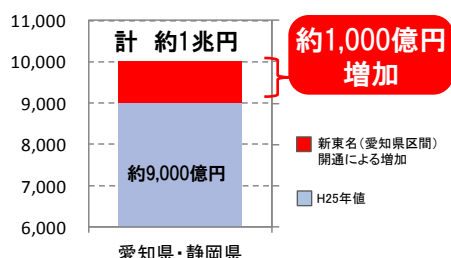
【試算結果】

(①観光客数変化)



H25年値:観光庁「全国観光入込客統計のとりまとめ状況(年間値:平成25年)」

(②観光消費額変化)



H25年値:観光庁「全国観光入込客統計のとりまとめ状況(年間値:平成25年)」

【位置図】

